

依然厳しい財政力

平成20年度に行った主な事業

デマンド型交通運行事業	461万円
こぐわ保育園送迎バス更新事業	601万円
合併処理浄化槽整備事業	701万円
産地競争力強化総合対策事業 (畜産関係機械購入補助)	791万円
やまがた新時代産地形成事業 (遊休農地解消のための補助)	480万円
松くい虫防除事業等	500万円
森林環境保全整備事業 (林道白鷹東部線測量調査費)	795万円
企業立地促進事業 (町産業立地促進資金、町企業立地促進事業費補助金)	3,870万円
除雪事業	9,414万円
赤坂深山線道路改良事業	1,274万円
荒砥駅本宿線道路改良事業	1,449万円
田尻笠松線道路改良事業	1,049万円
鮎貝まちづくり事業	6億4,994万円
町民プール整備事業	1億6,340万円
学校給食共同調理場配送車更新事業	556万円



羽黒神社の

監査意見書

なお一層の経費削減を期待

全体として、計画に沿った行財政改革が実施されており、今後なお一層の経費削減を期待します。

税収の未納対策では努力のあとが見られるが、具体的な実績が課題となります。

入札は適正に執行されているが、特に随意契約ではより高い公平性・透明性の確保に向けた基準づくりが必要なのではないか。

行政は、町民の奉仕者であるという原点に立ち返り、経験と前向きな発想の転換や行動力が益々求められます。

課内、各課の連携をはかり無駄を省き風通しのよい組織づくりを構築し、職員全員が行政のプロ意識を自覚し、町民の期待に応え信頼されるように、町民目線を最優先にさらなる実践強化を期待します。

小林泰史 代表監査委員
加藤秀人 監査委員

どうなる？ まちの財政力

区分・年度	20年度	19年度	18年度	説明
財政力指数	0.274	0.270	0.264	1.00に近いほど余裕がある。
経常収支比率	92.2	93.0	92.6	70%に収まるのが妥当。80%を越えると危険ライン。
自主財源比率	26.0	29.0	27.6	町税、固定資産税など自ら調達できる財源。
公債費比率	15.8	17.6	20.1	20%以上は赤信号。
実質公債費比率	21.1	22.0	23.7	公営企業等を含む。